

NO.1 創刊号

THE

市町支援通信



「新年明けましておめでとうございます。」

さて、平成19年4月1日に誕生した『市町支援グループ』もおかげさまで無事新年を迎えることができました。

昨年、29市町様には「途切れのない支援」システム構築の説明会(6/29津庁舎会場)を、県内各市町様には訪問しての説明(10月~12月)をさせて頂きましたが、その際、貴重な時間を割いて頂きましたことを、紙面をお借り致しましてお礼申し上げます。

また関係市町様には巡回指導・園(校)内研修にご理解ご協力を頂きましたことを心よりお礼申し上げます。

今年も昨年に引き続き、当該市町様の保健・福祉・教育の連携(協働)による“子どもの発達総合支援室(機能システム)”作りをお手伝いさせていただきます。現在『市町支援グループ』では次年度支援を希望される市町様からの要請を受け付けております。

なお、ご希望の際は、1月31日までに『市町支援グループ』までお申し出下さい。

ホームページの開設&新聞の発行について・・・!

昨年末、私どもの業務内容を皆様方に広く知っていただくため『市町支援グループ』のページをあすなろ学園ホームページに開設しましたので、ご一読下さい。

さらに今回、より具体的な動き(様子)をお伝えするため『THE市町支援通信』を発行し、皆様方のお手元にお届けできることになりました。県内全市町様を歩かせて頂いた際にも、他市町の動き(情報)や具体的な声を聞かせてほしいというご要望をたくさん頂戴しましたので、取り組みの様子や生の声を交えたわかりやすい内容・紙面作りをモットーに取り組んでいきたいと思っております。

ところで、こどもの発達総合支援室「市町支援グループ」ってどんなところ・・・?

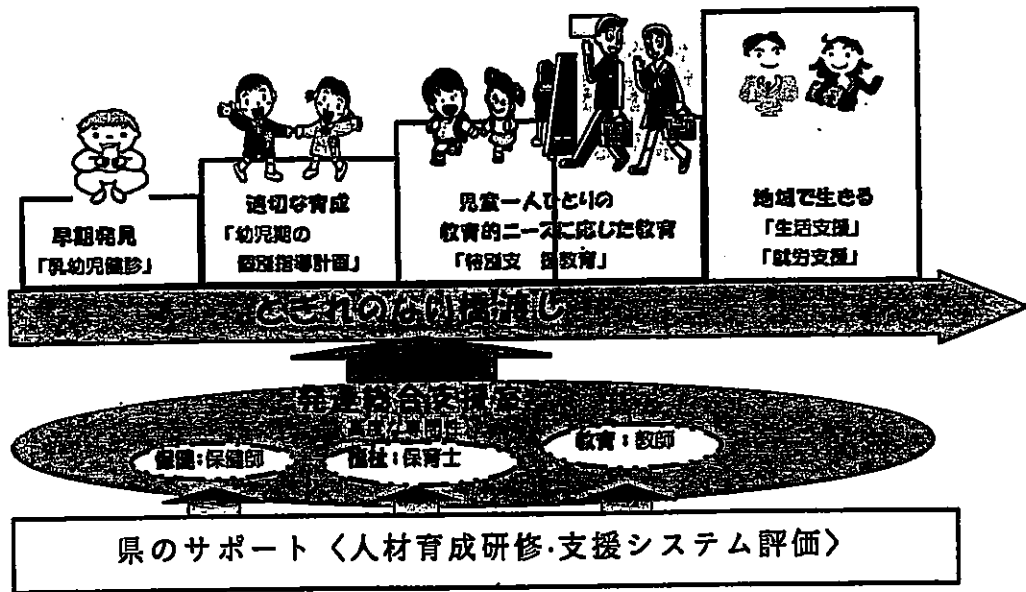
三重県に生まれ育つ発達障がい児が、生涯にわたって途切れのない支援が得られるよう、当該市町様に“発達障がい児支援システムを構築する”ための援助を行う部署です。

〈具体的な支援として・・・〉

- 1 保健師さんへの早期発見・保護者のサポート援助
- 2 保育士さん・幼稚園教諭さんには、乳幼児期の気になる子の発見方法、個別支援(指導)計画の作成、保護者のサポート援助
- 3 乳幼児期から学童期への途切れのない移行方法の具体的な支援
- 4 途切れのない支援システムのための必要な保健・福祉・教育が協働する“こどもの発達総合支援室”機能設定の援助
- 5 保健師、保育士、教員等(キーパーソン)の専門性の養成

<めざす姿>

市町における発達障害児・者支援システムの構築



平成19年度活動内容と支援状況について…！

現在、『市町支援グループ』では、システム構築にあたって要望のある市町様へ、下記の支援をしています。

① システムを推進するための、保育園・幼稚園・小学校の巡回指導

事前に相談ケースの資料をいただき、当日保健・福祉・教育の担当者と当メンバーと一緒に園(校)を訪問、観察及びケース検討等での助言指導も含めた相互研修を行い、関係者がお互いに高め合えるような形式で、現場での“目利き、腕利き”の育成を目指します。

ちなみに・・・、4～12月までの相談件数は、延べ数で62園(校)・248ケース。
また、システム構築に関する講演会や会議は、今年度関わっている市町様以外からも、多くの要請を頂き、これまでに58回を数えています。

② 3歳児及び5歳児の発達チェックと幼児期の個別の支援計画

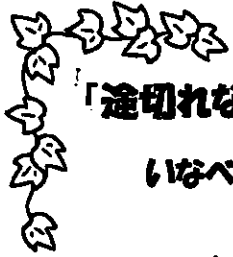
日頃一番子どもたちと(生で)接する機会の多い保育園・幼稚園の先生方に、日常の保育(教育)現場でチェックして頂き、個別の支援計画作成の支援を行います。子どもたちが見過ごされることなく支援のスタートが切れることを目指すと同時に、保育園・幼稚園の先生方の専門性向上にお役に立ちたいと思っています。

ちなみに・・・、このところ、『5歳児発達チェック』+『個別の支援(指導)計画』のセットで、適切な支援(対応)の実践に取り組み始める市町様が増えています。

③ 専門研修

三重県教育委員会の発達障がい児担当指導者内地留学生2名と、“発達障がい児支援システムを構築する”市町様の職員2名を受け入れ、専門研修を行っています。学園・あすなろ分校・巡回指導等、現場における実践の積み重ねを主体としたプログラムにより、研修後即戦力として動けるようスキルアップをはかります。

VOICES(このコーナーでは現場からの生の声をお届けします！)



「途切れない発達支援システムづくりをめざして」

いなべ市福祉部・教育委員会

いなべ市では昨年度から途切れない発達支援システムづくりをめざし、あすなろ学園の協力を得、保育園幼稚園を中心に巡回訪問(約20回)を実施しています。巡回訪問ではあすなろ学園の先生方とともに教育委員会の指導主事と福祉部の保健師や保育士も参加、子どもに関わる相談に加え、特別支援教育の研修会も行いました。

子どもに関わる関係各課の職員が保育・教育の現場に足を運ぶことで、共通理解が生まれます。この巡回相談等を通して、子どもの困り感や親さんや保育士・教諭の方々の現場での悩みを直接知ることができました。

巡回訪問で得た声やあすなろ学園からの助言を、今後いなべ市で進めていく途切れない発達支援をめざしたチャイルドサポート計画に生かしていきたいと考えています。



亀山市 渥美修二

私はこれまで中学校で勤務してきました。小学校での公開授業や研究会への参加はありましたが、今回のようにほぼ3ヶ月間にわたって、併設する高茶屋小学校あすなろ分校で研修をさせてもらったことは、半年間の病棟研修と共に、たいへん実り多いものになりましたし、私のこれからの仕事に大いに役立つものと確信しています。どこの学校でも目の前のお子さん一人ひとりの特性を見極め、最良の支援の方法を見つけ出し、実践されているとは思いますが、あすなろ分校の先生方のチームワークの良さや個々の力量の高さ、さらに焦点化された「個別の指導計画」には目を見張るものがあります。また、ドクターや病棟との連携、原籍校との交流、関係者会議への参加など、特別な役割をも担いながら、すべてのお子さんの地元復帰や幸せを願っている姿を目の当たりにして、自らの力量不足を恥じつつも、今後の研鑽の大きな糧となりました。



志摩市 谷 礼子

あすなろ学園週3日の研修と、志摩市の「子ども総合支援係」として週2日勤務の生活が始まり早9ヶ月が過ぎました。分校・外来療育・病棟などいろいろな部署で研修しながら、自分の学んだことを現場の先生方に伝えたり、子どもたちの困り感について一緒に考えたりして、あすなろに持ち帰り、助言・指導をいただけてきました。

その子に合わせた療育のプログラムや個別の支援計画など、現場の先生方と相談させてもらいながら、その見方及び方法で良いのか否かを、リアルタイムであすなろから指導してもらおうことで、とても中身の濃い研修をさせてもらってきました。また園や学校で定着したよりよい支援を家庭へ知らせていくことの大切さについても学ぶことができました。子どもたちの困り感が少しでも軽減され、保護者の方の子育ての力になれるよう、残り3ヶ月さらに研修を深めていきたいと思っています。



津市 山口富生

保・幼・小の巡回相談に出向き、多くのケース検討会に参加しました。具体的には、

- ① あらかじめ届けられた個別の支援・指導計画に目を通し、子どもはもちろん担任さんや園・校のイメージを思い描く。
- ② 当日は、当該地域の教育や保健の担当者と合流し、午前中に観察、そして午後にケース検討を行う。

学園で研修したことや机上で学んだことを現場にどのように反映していくか、責任ある発言が求められる、まさしく自分自身の“目利き、腕利き”が試される場です。そういった意味で、非常に緊張するのが巡回相談なのですが、関係者一同が膝を交え、子どものことで思いを語り合いプログラムの立案や評価を重ねていく試みは、とてもエネルギーでさわやかな心地さえします。それが子どもに返っていくし、地域の支援力の向上にもつながるのですから、本当に特別支援の最先端の場で研修させてもらっていると実感でき、やりがいを感じている次第です。



鈴鹿市 森 順子

平成19年4月から1年間の研修も残すところあと3ヶ月になりました。様々な研修の中でも外来療育部門では、子どものニーズに即した療育プランを作成し、療育を行うということを研修しています。療育プラン作成の中では、動きのある活動を続けた後で「静」のプログラムを行うと着席が続きやすいこと、活動の切り替えが苦手な子どもたちにはプログラムの変わり目は流れるようにスムーズに行うこと、人的及び物的環境が大きく左右すること、個々の子どもの状態に応じた認知課題を呈示すること等配慮すべき大切なことをたくさん学びました。療育を受ける中で子どもたちが「できること」を増やし「褒められる」体験の中で自信をつけていく姿を見て、療育の重要性を実感しました。私自身今まで保育所に勤務していた頃は「療育」と「ふだんの生活」を分けて考えていたところがありましたが、今後は保育所においても、医療と連携した保育や教育を取り入れた適切な支援を継続し、学校に繋げていくことが必要だと痛感しています。

インフォメーション

『発達障がい児支援モデル事業中間報告会』開催予定のお知らせ！

日時：2月4日（月）13：30～

場所：久居庁舎2階25会議室

※ 詳細・案内等は、健康福祉部こども家庭室より出されます。



2008年1月4日

発行 三重県立小児心療センター あすなろ学園 広報担当：こどもの発達総合支援室 市町支援グループ
 〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL・059-234-8700 FAX・059-234-9361
 MAIL：asunaro@pref.mie.jp URL：http://www.pref.mie.jp/ASUNARO/HP/